

産大生と地域のかけ橋

地域連携活動
完全復活!!

ローカレッジ

Local × College



新潟地域連携コミュニティ
地域活動・学生発表交流会

【特集】地域活動から生まれた
つながりから新たなつながりへ
柏崎冬のフェスティバル
～柏崎の冬を若者の力で盛り上げ隊～
冬の柏崎を元気にするイベント Vol.3

「えんま市」の経済効果を求める
「柏崎に関する研究発表会」より



柏崎青年会議所 地方の虎!
若き力で切り開こう!未来の地方都市

越後みそ西・柏崎総合医療センター
くらしのサポートセンターえきまえ

日本経済新聞社「大学の地域貢献度調査」
産大は小規模私立大学で全国7位!!

2023.12.09

新潟地域連携コミュニティ 地域活動・学生発表交流会

新潟県内大学生 総力結集!!



令和5年12月9日「地域活動・学生発表交流会〔成果報告・交流会〕」が、新潟大学五十嵐キャンパスにて行われました。4年ぶりの対面開催となり、100名を超える参加者が集まりました。地域活動を行う県内大学生の14チームが活動報告を行いました。

金ゼミナール

（アグリ・フードビジネス分野）

金ゼミナールは教員を含め、3名で参加しました。前回の交流会に引き続き、柏崎市高柳町の耕作放棄地再生事業について報告を行いました。くるみ・どんぐり等の植林の結果に、似通ったテーマを持つ新潟大学農学部や農林水産省の方とはお話が進んだようです。ポスターセッションでは、ゼミで栽培した野菜の販売も行われ、目を引くブースになっていました。「学生への良い刺激になった」、「ほかの活動にお誘い頂いた」など、得られたものが多い会になったようです。

安達ゼミナール

（企業会計分野）

安達ゼミは、「道の駅」をテーマに発表を行いました。柏崎市西山町の高齢者と子育て世代の抱える課題を解決する方法を研究した中間発表でした。「こういった交流の場は初めてで、他の学生の地域活動に対する熱意に圧倒された」とのことでした。しかし、「道の駅に関して予想以上に興味を持ってもらえた」、「他大学生から刺激を受けいい経験になった」というポジティブな話も聞きました。「交流会を経て、研究を必ず完成させるといふ思いが強くなった」と、熱い話が聞けました。

本校からは、権田ゼミ、安達ゼミ、金ゼミが参加しました。また、運営メンバーとして、権田ゼミから5名が1年間、会の運営に携わり、当日の司会・進行も務めました。
昨年はオンライン開催でしたが、対面形式に戻ったことによりポスターセッションも行われました。参加者は各々興味のあるブースに赴き、話に花を咲かせていました。ポスター展示だけでなく、活動に関連する物品の販売も行われました。活動内容に関する質問や新たな活動へのお誘いなど、発表団体と参加者の双方に実りある催しになりました。また、他大学生と仲良くなる、学生同士の交流の場としての役割も十分に発揮できた会でした。



▲他大学生と名刺交換を行う権田ゼミナールの学生

他大学学生団体

産大の他には、新潟大学をはじめ11団体が参加しました。SDGsを意識した活動やライフセービングサークル、中高生の探求学習支援など多様な方法で地域にアプローチする活動を聞きました。各団体の得意な分野で地域活動を行うさまに、聴衆は学びを得ると同時に熱意を感じました。
ポスターセッションでは学生同士の盛んな交流が行われました。今後の活動について展望を語り合い、名刺交換を行う学生もいました。学生個人、団体同士のつながりが生まれる瞬間をあちこちで目にすることができました。

▲新潟産業大学の学生も所属する「にいがた鮭プロジェクト」



権田ゼミナール

（まちづくり・地方行政分野）

権田ゼミの発表ではこれまでの活動と今年度新たに行った地域活動について発表を行いました。さらに、権田ゼミの活動について「つながり」をテーマに考察、発表しました。他大学との交流の重要性についても述べ、この会で発表できたことに意味を感じます。
ポスターセッションでは、あんどジャムや時絵コースターの販売、PR動画も流しました。多くの人に興味を持っていただき、購入してくださる方もいらっしゃいました。
他大学の活動を聞いて大きな学びを得られたことに加え、他大学生とつながりを持つことが何よりの収穫でした。ここで交流した「たけんちゅ」「ダブルホーム」の方々には権田ゼミが企画する「柏崎冬のフェスティバル」に出店いただきました。



「柏崎冬のフェスティバル」にもご参加いただいた▼「竹人（たけんちゅ）」の発表の様子



様々な地域活動で育んだつながりで、冬の柏崎を元気にする大きなイベントが実現しました!

【特集】地域活動から生まれたつながりから新たなつながりへ

柏崎冬のフェスティバル

～柏崎の冬を若者の力で盛り上げ隊～



FREAK FLEEK



しましま



マリブカフェ



くらしのサポートセンター えきまえ



いろはや製菓所

柏崎地域の方々からの出店もありました。いろはや製菓所、マリブカフェ、しましまからは、出張販売、くらしのサポートセンターえきまえからは「クラフト体験・ミニバザー」、FREAK FLEEKからは「スノードームづくり」が展示されました。



新潟総踊り連「風雅」

ステージイベントでは3つの団体が発表を行いました。nao dance schoolの皆さんによるダンス発表、新潟総踊り連「風雅」によるよさこいの演舞、新潟工科大学軽音部によるライブが行われました。どのステージイベントも来場者が客席数を多く上回り、急遽椅子を追加するなどの場面がありました。



nao dance school



新潟工科大学 軽音部



書道部



学友会



写真部



茶道部

昨年に続き、今年で3回目となる「柏崎冬のフェスティバル」では県内の他大学から約30名の参加がありました。新潟大学からはダブルホーム「Fホーム」、「Cホーム」、「たけんちゅ」の活動紹介。新潟工科大学からは「再生可能エネルギー研究部」が「動くスライムづくりと気圧の変化の実験」を出店。新潟産業大学からは「学友会」、「書道部」、「茶道部」、「写真部」が参加しました。

また新潟産業大学OBとして「タコスパラダイス」、「けっちゃんのたまごん」が参加しました。

今回の「柏崎冬のフェスティバル」はコロナ禍が明け、マスクが必須ではないイベントとなりました。今年度新たにつながりを得た団体にお声がけし、連携を図ることによって、そのつながりをより強固なものにしました。

来場者数は過去最大となる約360名ほどとなりました。来場者増加による新たな課題を見つめなおし、これからも地域の人に愛されるイベントをめざしていきたいです。



サンチャッカル君とビンゴ



新潟大学Fホーム



新潟大学たけんちゅ



けっちゃんの
おいしいたまごん



タコスパラダイス



新潟大学Cホーム



新潟工科大学
再生可能エネルギー研究部

えんま市

今年も6月14〜16日に「えんま市」が開催されました。前回は、感染症対策によるえんま市の縮小によって、えんま通りとピッカラ通りのみでの開催でしたが、今回はニコニコ通りなどコロナ前と同規模で開催されました。本学で20名の学生がニコニコ通りの「フレッシュコーヒーNO.1」さん向かいの同店倉庫位置に出店しました。ブースでは柏崎市内の企業と大学生のコラボ商品を販売しました。



▲FMピッカラさんに取材してもらいました

3日間の出店では、これまで手掛けた地元企業とのコラボ商品を販売。あんなにジャムのPR動画を流し、あんなにジャムに興味を持っていただいた方や、蒔絵コースターのキャラクターに興味を持っていただいた方に詳しい説明をしている様子が見受けられました。他にも子ども向けに糸引きくじや駄菓子、写真部と文芸部のコラボ商品「写真短歌ポストカード」など様々な商品を用意し、お祭りらしい雰囲気盛り上げるブースにしました。

また、2日目には黒岩ゼミがえんま市の来場者の方にアンケート調査を行いました。今回の調査の結果は次ページに掲載しています。



▲黒岩ゼミによるえんま市の経済効果調査のためのアンケート。調査結果は次ページをご覧ください！

市外からの来場者もあり、多くの方がブースに訪れてくださり、私達の活動を知っていただきました。地域の方以外にも他ゼミ生や教職員のみなさんにも訪れていただきました。

特に今年入学した1年生は「基礎ゼミナール」の授業として、柏崎の伝統的な大規模なイベントを楽しんでもらえました。また、今まで交流を持った地域の方も訪れていただき、改めて私達の活動による地域とのつながりを確認できました。

今回、出店スペースを貸してくださいました、フレッシュコーヒーNO.1さんとは今年の紅葉祭でコーヒートの販売をする際にコーヒー器具を無償で貸してくださるなど、新たなつながりを創出することが出来ました。

「えんま市」の経済効果を求める

「柏崎に関する研究発表会」より

小柳翔・矢島溪也・鈴木凜太郎・堀川蒼太（経済経営学科4年）

えんま市の経済効果

柏崎で例年開催され、200年を超える歴史を誇る「えんま市」。黒岩ゼミナールでは「えんま市」の経済効果を求めるという目標をたて、調査・研究活動に取り組みました。祭り当日に現地にてアンケート調査を行い、経済効果の計算と分析、学内での中間報告会の発表を経て、集大成として「柏崎に関する研究発表会」での発表を行いました。以下ではこれら一連の活動を報告します。

ゼミの大きな目標は、「地域の経済を、理論と現実の両面から学ぶ」というものでしたが、その意味でも有意義な活動となりました。

祭り会場でのアンケート

6月15日、えんま市の2日目に祭り会場にブースを設置し、アンケートの配布を行いました。また配布に伴い、大学が発行する地域通貨である「風輪通貨」も配布しました。当日は多くの人出で賑わい、地域の方々と交流を深めることができました。また、配布した風輪通貨もすぐに使われ、地域通貨が地域活性化に

つながることを実感しました。

えんま市が始まる前から、アンケートの項目をゼミの学生で検討し、デザインを考案しました（写真①）。またその後、アンケートは学内でも実施し、計100枚を回収しました。



写真① アンケート

経済効果の分析

【直接効果】アンケートの結果によると、1人当たりでは屋台等での飲食費が1340円、土産代が238円、イベントなどの入場料が12円となりました。これらにえんま市の参加者数29万6千人（3日間、柏崎市商業観光課調べ）を掛けて全体の金額を推計しました（表①）。

さらに、交通費等も推計して全ての金額を合計したところ、6億5388万円となりました。これがえんま市の「直接効果」になります。

飲食費	3億 9655 万円
土産代	7030 万円
入場料	348 万円

表① 祭り参加者の出費

直接効果	6億 5388 万円
第1次間接効果	8億 250 万円
第2次間接効果	8878 万円
合計	15億 4516 万円

表② えんま市の経済効果

【間接効果】次に「産業連関分析」という手法を使って、まず「第1次間接効果」を計算しました。この効果は、屋台などの販売額が、どのように原材料などに波及するかを計算して集計したものです。この効果を計算すると8億250万円となりました。内訳をみると、予想通り食料品関係が多くなりました。

さらに、「第2次間接効果」も計算しました。これは所得が使われることによって発生する効果です。このような「第2次間接効果」も計算したところ、8878万円となりました。

全体的な経済効果

以上の効果を合計して、えんま市全体の経済効果を求めました（表②）。経済効果は15億4516万円となりました。他の祭りと比較すると、上越市の「謙信

今後の課題

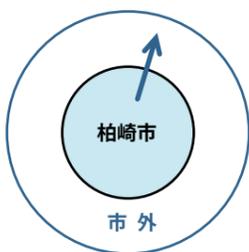
えんま市の課題としては、経済効果の地域外への「漏れ」がかなり大きいことが挙げられます。今回計算したところ、7億円に上りました（図①）。この「漏れ」を防ぐことが今後の課題といえます。

対応策としては、地元商品の販売を促し、材料も地元中心にすることなどが考えられます。

この他の課題として、えんま市は宿泊客が少なく（アンケートでは0%）、イベントなどの入場料収入が少ない、という問題があります。この課題を解決するため、ゼミで対応策を検討したところ、「集客力のある中核イベントを開催し、広く周知する」という案が示されました。

なお今回の分析方法自体にも様々な課題があります。今後は手法を改善して、数値の精度を上げていく予定です。

図① 7億円の漏れが発生



別俣地区ってどんなところ？

今年度、権田ゼミナールとして初めて別俣地区を訪問し、交流を行いました。
ここでは別俣地区の概要、ゼミとの交流活動について紹介します。

別俣地区は柏崎市街地から少し離れたところであり、久米・水上・細越の3つの集落からなります。小さな地区ですが、地域活動は活発に行われており、とても活気があります。

別俣地区では今年度から新潟大学のダブルホームのCホームが活動を行っています。地区内から「地元の大学生とも交流したい!」とお声掛けいただきました。そこで権田ゼミナールが別俣地区を訪問し、交流しました。初めて訪れる学生がほとんどで、別俣地区の雰囲気を楽しみました!

別俣地区には市内で唯一の木造校舎があります。2005年に別俣小学校が廃校し、2008年からは「別俣農村工房」という施設になり、住民にとってなくてはならない場所です。

「別俣農村工房」では、毎月第二・第四の土日(冬季を除く)に食堂を開いたり、農業体験を行ったり、イベントを開催したりなど、様々な用途で使用されています。

毎年8月には「きらら星空音楽祭」が開催され、別俣の夜空を音楽で彩っています。今年度は権田ゼミナールもイベントに参加し、地元住民や新潟大学Cホームとの交流を深めました!



▲ 星空の下でのイベント大盛況でした!



▲ 舞台は昭和45年の小学校!?

10月には昔の小学校体験「ノスタルジックツアー」が行われました。木造校舎で社会や図工などの授業や、みんな大好き給食の時間も体験! 地域内外から多くの参加者が集まりました。ランドセルを背負ってみたり、小学生時代の思い出話をしたり... 木造校舎での小学校体験は新鮮なようで、どこか懐かしいイベントでした。



懐かしの給食!!



今では地域のシンボルである木造校舎。しかし、別俣小学校の廃校が決まった時、木造校舎を「残す」のか「壊す」のか、住民の意見は割れていました。今後も維持できるのか、費用はどうするのか。そういった苦難を乗り越え、今も残って別俣を支える存在となっています。

文・デザイン：池嶋 菜央



【特集】地域活動から生まれたつながりから新たなつながりへ



▲ 木造校舎を見学



▲ 「民謡街頭流し」にも別俣地区の方々も参加しました!

規模拡大での開催

たかだ竹あかり

9月23日に、柏崎市の史跡「飯塚邸」にて「たかだ竹あかり」が開催されました。今年度は、規模が拡大された「ふるど大池」を含む3会場での開催でした。

3会場それぞれのあかり 炎天下での作業

今年度は久々に、産大生も竹伐採から、古い竹灯籠の選別、竹の加工などの準備段階の作業から関わらせてもらいました。

竹伐採は初夏の炎天下での作業でしたが、地域の方のご指導の下、60本の竹を切り出しました。

加工作业では、竹の節を抜いたり、様々な模様の穴をあけ、そこから漏れる光が綺麗に会場をライトアップするように竹灯籠の制作を行いました。

令和5年9月23日、「たかだ竹あかり」が開催され、竹灯籠を用いたライトアップが行われました。昨年度は感染症の拡大に配慮し、飯塚邸会場のみでの開催でしたが、今年度は昨年よりも2会場増えた3会場での開催で、移動も巡回バスを出すなど規模が拡大し、約1800人の来場者となり、大変賑わいました。

その場所に合わせて配置やライトアップも変わり、3つの会場それぞれで楽しめる工夫が施されました。

竹あかりに参加して

昨年から引き続きの開催となりましたが、大きな変更としては、3会場に増えて来場者も大幅に増加したことが挙げられます。高田コミセンではキッチンカーなども出店し、見て楽しむだけでなく終わらない工夫もありました。準備や当日の運営を含めて、地域の方とゼミのメンバーで協力して一つのことをやり遂げることができ、若者として地域の賑わいの一助となれたと感じました。

来年以降も開催し、また多くの方に見に来ていただきたいです。



ふるど大池会場

彼岸花の咲く斜面を利用したダイナミックなデザイン



高田コミセン会場

色とりどりの華やかなイルミネーション



飯塚邸会場

日本庭園「秋幸苑」と調和した優しいあかり

柏崎青年会議所主催

地方の虎！ 若き力で切り開こう！ 未来の地方都市

5月18日、柏崎市産業文化会館にて、柏崎青年会議所5月公開例会「地方の虎！若い力で切り開こう！未来の地方都市」が開催されました。

柏崎青年会議所会員と柏崎市内2大学学生・看護学校生が、柏崎刈羽地域の人口減少緩和に向けた移住定住促進をテーマにグループワークとプレゼンテーションを行いました。新潟産業大学からも14人の学生が参加、それぞれのグループで活発に意見交換が行われていました。評価者には柏崎市移住・定住推進パートナーチームリーダー間島博英様、サプリーダ



▶ 柏崎市内から多くの学生が集まりました！



▶ 評価者の皆様

1 栃堀佳倫様、十日町市移住コンシェルジュ滝沢梢様、柏崎市元気発信課職員様がお越しでした。公開例会は、まずは人口減少が

及ぼす影響や、柏崎のまちづくりについて、人口流出を抑えるために柏崎や近隣市町村が行っている支援制度がどのようなものかといった予備知識を学びました。

プレゼンでは音楽フェス、海の近くに集合施設を建設する計画、駅前商店街の空きスペース活用など、個性豊かな案が発表され、それぞれの案に対して評価者の皆様からフィードバックをいただきました。今回、評価者から選ばれた施策

▶ 産大生も発表！



▶ 個性豊かな案が出そろいました



案は、伝統野菜生産者とその後継者になりたい人をマッチングする「伝統野菜でナニンマエ」という案でした。この案はパートナーチームで検討した後、柏崎市に提出される可能性があるそうです。柏崎青年会議所と市内学生の世代や立場を超えた協力で、柏崎が更に活気のあるまちになっていくのか、今後にご注目ください！



越後みそ西 192周年祭

7月1日、越後みそ西本社工場にて、「越後みそ西192周年祭」が開催されました。豚串やコーヒートといった飲食物の販売だけでなく、醤油のオリジナルラベル制作・味噌蔵見学といった、越後みそ西さんならではのイベントが開かれていました！

新潟産業大学からは写真部と書道部が作品を販売。権田ゼミナールもスライム作り・風鈴絵付けコーナーなどの体験、あんこジャム・時絵コースター・ふふ豆の販売で出店しました。天気はあいにくの雨でしたが、美味しさいっぱい楽しさいっぱいの笑顔あふれるイベントでした！



▶ 権田ゼミナールの販売ブースの様子



▲文化部の販売ブース

くらしのサポート センターえきまえ

大学生による高齢者向け スマホ教室を開催

「くらしのサポートセンターえきまえ」は、中越沖地震を契機として開設した施設です。高齢者の介護予防のために、地域における「ささえ愛」活動を推進すべく、高齢者向けのサロン活動を展開しています。

昨年度から何度か訪問してきましたが、11月7日に初めての試みとして、高齢者向けのスマホ教室を開催しました。学生が先生役となって、高齢者の生活にも欠かせないLINEの基本操作や個別相談に対応しました。現在、柏崎市の新デマンド交通「あいくる」の登録方法など、市の施策と連動した第2弾の教室も計画しています。若者が得意とするスマホの知識を活かして、高齢者との交流の機会を持つことを大変嬉しく感じています。



柏崎常盤高等学校 「総合的な探究の時間」

高校生の進路の悩み相談に 大学生が本音で回答！



11月17日、柏崎常盤高等学校2年生の「総合的な探究の時間」に同校卒業生2名を含む学生9名が参加し、交流学习を行いました。この取り組みは昨年度に続いて2回目の実施となります。高校卒業後の進路選択に関する高校生たちの相談にのり、また、大学生活に関する様々な質問にも親身になって答えました。

この日参加した学生はすでに就職活動を終えた4年生が中心でしたが、高校生に自らの経験を話すことで、自身の進路選択、キャリア形成について改めて振り返ってみる、よい機会となりました。

柏崎総合医療センター 看護学生向けPR動画制作

柏崎総合医療センターからの依頼を受け、昨年度から有志学生が看護学生向けのPR動画を制作しています。1年目は医療機関ではまだ感染症対策による制限が厳しかったこともあり、オンラインでの打ち合わせを重ねて来ましたが、今年度になって撮影を始めることができ、編集作業を経て、間もなく完成予定です。

今回の動画では、主に3名の看護師の方々に登場していただき、春川一樹さんは、救急看護認定看護師として、現在は救急外来を担当、災害派遣チーム(DMAT)としても活躍されています。長谷川美久さんは手術室の担当です。タイトなスケジュールの中で、手術室内での撮影は大変緊張しま



した。そして、透析室担当の青柳里奈さんの撮影には広報委員会の藤村先生にも登場いただきました。動画制作を通じて、地域医療を支える看護士の皆さんについて理解が深まり、また、撮影や編集のスキルアップにも繋がりました。完成した動画は同院のYouTubeチャンネルで公開予定です。看護学生のみならず、少しでも興味を持つていただけたら嬉しいです。

様々な世代や職業の方との交流を通じて、多くのことを学び、地域の課題について考えることができました。これらの活動で育んだ地域の皆さまとのつながりをきっかけとして、今後、さらに新たなつながりの輪を広げていきたいと思います。

紅葉祭

10/14 ~ 15

地域の企業

部活動出店

模擬店

ステージイベント

教室イベント

1年次「基礎ゼミナール」の出店でクラスの距離が縮まった！



▲マリブカフェ ▲タコスパラダイス
今年度の紅葉祭は、4年ぶりの一般開催となり
柏崎市内の企業にも出店していただきました。

▲茶道部 お茶会 ▲写真部 写真販売

令和5年10月14日、15日に第35回紅葉祭が開催されました。今年度の紅葉祭は4年ぶりとなる一般開催でした。コロナウィルスの影響により、これまで学内のみでの開催だったため、不安要素は沢山ありましたが、無事、大成功に終わりました。

今年度は、1年次「基礎ゼミナール」の授業の一環として、各クラス1店舗ずつ模擬店や教室イベントを出しました。模擬店では、クロッフルやわたあめ、教室イベントでは、ボーリングやわたあめなど出店していました。ゼミ生同士で準備から協力し合い、紅葉祭後は、さらに距離感が縮まったのではないかと感じます。



紅葉祭とても盛り上がったね！
みんな来てくれてありがとう！



ステージイベントでは、柏崎市内のキッズダンススクール「rao dance school」、産大軽音部、工科大軽音部の発表、人気お笑い芸人の漫才&トークショー、ビンゴ大会と、盛りだくさんな内容でした。

ビンゴ大会では、産大マスコットのサンチャッカーが登場したことで、より盛り上がりを見せました。一般参加者もビンゴ大会に参加できたため、景品もより豪華なものとなりました。目玉景品である任天堂switchや、大きなぬいぐるみは産大の4年生が獲得し、とても嬉しそうな様子でした。

地域の企業からお笑いステージ！まで盛り沢山の2日間でした！

その他、各ゼミや部活動も出店し、多くのお客さんに楽しんでいただきました。権田ゼミではクレープ、海鮮網焼き、コーヒーを提供しました。コーヒーはフレッシュコーヒーNO.1のコーヒーを提供し、クレープとの相性が抜群でした。クレープで使ったポテトサラダは、ゼミ生の内定先から無償で提供していただいたもので、これも大人気商品となりました。

地域の企業や、産大OBからも出店していただき、マリブカフェ、FREEK FLEEK、タコスパラダイスなど多くの方に参加していただき大盛況となりました。



学生活動紹介

書道部、茶道部、吹奏楽部は令和7年度【学校推薦型選抜】【自己推薦型選抜】の文化活動型「推薦対象文化部」です。



吹奏楽部

私達は毎週月、木曜日に校内の講堂で活動しています。私達は主に新潟産業大学附属高等学校の吹奏楽部の皆様と合同演奏を行っています。主な活動内容は、自主練習、基礎練習を行い各自のスキルアップを目指したり、学内外問わず柏崎で行われる様々なイベント、演奏会に積極的に参加したり、イベントで演奏する曲の譜読みをしたりしています。今年度は学園祭とクリスマスコンサートで合同演奏を行いました。



なお、今年度は参加していませんが、毎年2月に開催される「柏崎冬のフェスティバル」のイベント内でも合同演奏を行っています。合同演奏は普段少人数で活動している私達にとって、とても貴重な機会となります。私達の現在の目標は部員集めです。私達は現在数名で活動していて、とても寂しい思いをしています。ですので、この記事を通して私達吹奏楽部の存在をたくさんの方に知っていただきたいです

(文化経済学科2年 平井創大)

書道部

書道部は毎週水曜日15時から活動しています。基本的には、書道(字)の練習ですが、季節に合わせて大学の事務局に部員が作成した年賀状や暑中見舞を配布しています。また、施設見学・イベント参加といった柏崎市内や周辺地域への学外活動にも力を入れていきます。

今年度の活動としては、出雲崎町「良寛記念館」に施設見学に行き、越後みそ西主催の「越後みそ西192年祭」、刈羽村主催の「刈羽村文化祭」、柏崎国際協会主催の「国際ウインターフェ



スタ」、権田ゼミ主催の「柏崎冬のフェスティバル」といったイベントに参加しました。イベントでは、書道の良さを広めるために、書道体験を行っています。また、ボランティア活動として、5月に海岸清掃に参加、昨年に引き続き良寛記念館応援倶楽部の「てまりの会」に所属しています。

これからも地域活動を通して、新潟産業大学書道部や書道の良さを広めていきたいです。

(経済経営学科3年 本間才揮)

茶道部

茶道部は毎週火曜日に大学内にある和室で活動しています。活動内容はお茶を点てる時、いただくときの作法の練習です。

また、学外での活動にも取り組んでおり、今年度は「刈羽村文化祭」や「柏崎冬のフェスティバル」などのイベントや、「くらしのサポートセンターえきまえ」への出張お茶会などを行いました。

部員が少なく小規模な部活ではありますが、地域との関わりやイベントを通して、これからも楽しく活動していきたいらと考えています。

(文化経済学科3年 小須田俊輔)



学生消防隊

柏崎消防団学生消防隊は、新潟産業大学・新潟工科大学・新潟病院附属看護学校の3つの学校で構成されています。

活動内容は、主にえんま市や消防救急フェアで、防災普及活動や地域の方々に一次救命処置の方法を伝えることをしています。普及をすることだけではなく、隊員は普通救命講習を受講し一次救命処置について学ぶこと、柏崎地域防災リーダー研修に参加をし、座学や防護服の着脱の実習や放射線測定の実習を受けています。また、柏崎刈羽地区支会消防研究大会にも参加をし、柏崎消防団として学生消防隊も分列行進を行なっています。



学生消防隊の存在や活動を更に知って貰い、少しでも多くの方に興味を持って貰いたいと思います。

その為にも、より一層防災普及活動に取り組み、また一次救命処置について学びを深め地域の方々に伝えて広めていく、そんな存在になれたら、と思います。

私は、卒業後は柏崎消防の一員として、これまでの経験を活かして、地域の方々から必要とされる消防士を目指し、日々努力して頑張りたいと思います。

(文化経済学科4年 田中真由)

日本経済新聞社「大学の地域貢献度調査」 新潟産業大学は小規模私立大学で全国7位！！

日本経済新聞社が全国 765 校の国公立大学を対象に実施した「大学の地域貢献度調査」の結果が発表されました（518 大学が回答／回答率 67.7%）。

新潟産業大学は総学生数 2000 人未満の小規模大学で全国 19 位（総合 143 位）、このうち私立大学のみでは、全国 7 位という輝かしい結果となりました。

この調査は、大学の「組織・制度」「学生・住民」「企業・行政」「SDGs・グローバル」の 4 分野で点数化し順位付けされています。本学では「地域実践教育大学」を標榜し、大学全体で地域貢献活動に継続的に取り組んできたことが、このような結果に結びつきました。

柏崎商工会議所総合建築部会 主催 柏崎に関する研究発表会

2月19日に開催された「柏崎に関する研究発表会」に本学から4チームが参加し、各ゼミナールでの調査研究、地域活動について発表しました。経済経営学科安達ゼミナール4年奥野飛龍さん、岩田桜也さん、3年村上翔琉さんの「柏崎市西山町を事例とした買い物難民・子育て世代支援策の提言～道の駅を活用した地域拠点整備方策の研究～」が優秀賞に輝きました。



まちかど研究室（新潟産業大学権田ゼミ）

X (Twitter)

YouTube



ゼミナールの地域連携活動や「あんこジャム」PR動画も続々更新！

SNSで
情報発信
しています！

NSU 学生広報（新潟産業大学）

X (Twitter)

Instagram



産大生の学生生活を「学生広報チーム」メンバーが学生目線で情報発信！

産大生と地域のかけ橋

ローカレッジ Vol.16

2024年3月25日発行

編集・発行責任者

新潟産業大学 経済学部准教授

地域連携センター長

権田 恭子

※この冊子に関するご意見・ご感想をお寄せ下さい。

今後の参考にさせていただきます。

〒945-1393 柏崎市軽井川4730番地

新潟産業大学 地域連携センター

TEL: 0257-24-8441

FAX: 0257-22-1300

Email: renkei@ada.nsu.ac.jp

「地域連携活動、完全復活!!」今春卒業を迎えた4年生は、新型コロナウイルス感染症による影響をもっとも多く受けた学年でした。入学式は半年遅れの9月に開催、新生活への期待に胸を膨らませていた彼らは、経験したことのない社会の変化に戸惑い、多くの苦悩があったことでしょう。この間、社会における「人と人がふれあう」ことについてのルールやマナーの変化にも翻弄され続けましたが、ようやくマスクなしの素顔で笑い合える日々が戻ってきました。そして、地域の方々も「ふれあい」「つながり」を待ちわびていたことを実感することができた1年でした。

学生たちはしばしば若者らしい「地域課題を解決するアイデア」を期待されますが、それは「アイデア」単体としてポンッと生まれるものではなく、しばしば、日々の小さなつながり、交流の繰り返しのなかでの気づき、相互理解の中から、ゆっくりと醸成されるものであると考えます。彼らがこの4年間で、地域社会における人々のつながりについて問い続け、行動を続けて来た経験は、これからの人生においても確かな力として生き続けるものとなるものと信じています。

編集スタッフ:

文化経済学科4年 権田ゼミナール

飯島 康貴 池嶋 菜央 狩野 泰輔 木内 亮吾

黒岩 水華 後藤 麗玖 山本 知弘 劉 焱

文化経済学科3年 権田ゼミナール

岸田 尚也 小須田 俊輔 佐藤 凧紗 三澤 隆洋

(学年は2024年3月現在のものです)

